

手足口病の報告数が増えています

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 1	8	百日咳	↓ 0	1
RSウイルス感染症	↑ 100	97	ヘルパンギーナ	↑ 47	29
咽頭結膜熱	↓ 12	15	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 132	103
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 48	42	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 453	378	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 31	19
水痘	↑ 13	12	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 111	104	無菌性髄膜炎	↑ 3	2
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 2	5	マイコプラズマ肺炎	↑ 10	5
突発性発疹	↑ 34	30	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 流行性耳下腺炎
- 手足口病

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎 : 菊池
- 手足口病 : 菊池、水俣
- 流行性耳下腺炎 : 八代
- 流行性角結膜炎 : 有明

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	19	6	20	90	6	43	1	8	0	12	18	0	21	0	3	8	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	32	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	36	1	7	146	3	20	0	8	0	15	24	0	1	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	1	0	1	26	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	10	1	1	33	0	6	0	4	0	1	49	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	5	0	0	0	0	10	0	5	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0
8 人吉保健所	0	0	0	1	40	1	1	0	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0
9 有明保健所	0	20	2	3	46	0	7	0	3	0	3	12	0	9	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	1	7	0	13	27	0	10	0	2	0	7	20	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	2	2	2	6	3	14	0	2	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0
計	1	100	12	48	453	13	111	2	34	0	47	132	0	31	0	3	10	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5ヶ月	6-11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
小児科定点年齢区分	合計	0-5ヶ月	6-11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	100	24	19	41	9	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	12	0	1	2	4	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0							
A群溶連菌咽頭炎	48	0	1	1	3	3	6	6	6	2	4	5	8	2	1							
感染性胃腸炎	453	5	29	55	59	41	37	31	39	24	22	13	49	8	41							
水痘	13	0	0	3	2	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0							
手足口病	111	2	14	65	12	7	4	2	3	1	0	1	0	0	0							
伝染性紅斑	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0							
突発性発疹	34	0	17	15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	47	0	9	18	10	4	3	1	1	0	0	0	1	0	0							
流行性耳下腺炎	132	0	2	8	13	26	18	15	20	11	2	9	7	0	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5ヶ月	6-11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
流行性角結膜炎	31	0	0	1	1	3	2	1	2	0	1	0	0	3	3	8	1	2	0	0	3	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
無菌性髄膜炎	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
マイコプラズマ肺炎	10	0	2	5	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

手足口病の報告数が増えています

手足口病の報告数は111件で、例年の同時期に比べて報告数が多い傾向です。県全体としては、警報レベルではありませんが、水俣、菊池地域では警報レベルとなっています。手足口病は、口の中や手足などに水疱が出るウイルス性の疾患で、子どもを中心に夏に流行するといわれています。感染経路としては、接触感染、飛沫感染や糞口感染などが知られていて、症状がおさまった患者からも、しばらくは便中にウイルスが排泄されると言われています。今年は、夏に流行が見られませんでしたので、今後の動向を注視していく必要があります。予防には、丁寧な手洗いと、排泄物の適切な処理が必要です。感染予防対策をしっかりと行いましょう。

引き続き感染性胃腸炎に注意しましょう

今週の感染性胃腸炎の報告数は453件で、前週よりも報告数が増えています。また、菊池地域で依然として警報レベルです。冬場に流行する感染性胃腸炎の原因の多くは、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものです。ノロウイルスによる感染性胃腸炎はヒトからヒトへの感染と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられます。感染から発症までの期間は24~48時間で、主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、微熱です。通常、これらの症状が1~2日間続いた後に治癒しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化することがありますので、特に注意が必要です。ノロウイルスについてはワクチンがなく、治療も対症療法に限られます。予防は、手足口病と同様ですので、感染予防対策をしっかりと行いましょう。